

令和7年度小学生と市長との懇談会 会議録（要約）

懇談会の内容

【中野小学校6年2組 1班の提案】

児童の提案（1班）

【中野市にお願いしたいこと】

- ①遮断機がなく、事故が多い踏切があるので、遮断機をつけてほしいです。
- ②自転車だと車道も歩道も走りにくいので、自転車専用の道をつくってほしいです。
- ③白線や歩道の中に雑草が生えていると通りづらいので、刈ってほしいです。

【湯本市長に聞いてみたいこと】

- ④車道を直すために必要なお金は何円ですか。そのうち何パーセントが税金ですか。
- ⑤湯本市長の理想の歩道、車道とはどのようなものですか。

市長の回答

今は、遮断機のない踏切を閉鎖し、通れないようにしています。また、長野電鉄の遮断機の数が多いため、遮断機を増やすには既存の物をどれか減らさないといけないというルールがあります。

遮断機をつくるのに大体2,000万～3,000万円かかり、そのうちの600万円が警報器の設置費用です。とてもお金がかかりますので、新しく遮断機をつけるのではなく、地域の方と相談しながら通れないよう封鎖していきます。

道路の幅を拡げて自転車用の道をつくるには、土地や建物を持っている人に場所を譲ってもらうか、市で買い取る必要があります、とてもお金がかかってしまいます。

また、道路を1メートル整備するのに数万円から数百万円かかります。100メートルなら100倍の額です。全て税金です。

道路交通法第63条では、小学生のみなさんは歩道を自転車で走ることが認められているので、歩行者に十分気を付けながら通行してください。

白線や歩道の雑草については、市に連絡してもらえれば、市で都度草刈りを行うようにしています。

私の考える理想の歩道と車道について、本来であれば、車や自転車や歩行者のそれぞれに専用の道があり、きちんと通るところが決まっているのが最も安全だと思います。都会には、自転車専用レーンがありますが、道幅が広いからこそできることです。中野市は道幅が狭いので、なかなか実現するのは難しいです。

【2班の提案】

児童の提案（2班）

【中野市にお願いしたいこと】

①経常収支比率が高いので、市債を減らし、中野市をよりよくするために使えるお金を増やしてほしいです。

【湯本市長に聞いてみたいこと】

②市債を全額返済できないのはなぜでしょうか。市の財政状況について教えてください。

市長の回答

例えば新しくお家を建てる時、支払い方法は2通りあります。

一つ目は、今すぐにお家を建てるお金を用意するのは難しいので、30年かけてお金を貯め、全額たまってからお家を買う方法です。30歳のときに「お家を建てたい」と考えても、実際に建てられるのは60歳です。

二つ目は、最初にお金を借りて、すぐに家を買う方法です。そのあと、数十年かけて毎年少しずつお金を返していきます。

市も同じです。「お金を借りて新しく施設を建て直し、借金はあとで返そう」、「いや、もっと古くなるまで今の施設を使って、その間に貯めたお金で30年後に建てればいいじゃないか」といったように、その時の状況に合わせてどちらを選択すべきか、市で話し合っていて決めています。

市では無駄な出費を減らし、借金は約束通りに返済しています。ふるさと納税も活用し、去年は市外の方から23億円のお金を寄付してもらいました。今年も、まだ半年で既に29億円を納税してもらっています。災害等に備えるための貯金もありますが、どうしても、借金の割合よりは小さくなってしまいます。これは日本全体で同じ傾向です。

市債とは、学校や道路などを作るために銀行から借りる、とても大きなお金です。金額が大きいため、何十年もかけて少しずつ返済します。長い時間をかけて返すことで、「今の中野市民」と「将来の中野市民」が、費用を平等に負担できます。

また、市の財政とは、皆さんからの税金などを、学校や公園の管理といった生活に必要なものにどう使うかという「お財布のやりくり」ですので、計画的に大切に使う必要があります。

【3班の提案】

児童の提案（3班）

【中野市にお願いしたいこと】

①子育て世帯や障がいのある方が気軽に相談できる場所を増やしてほしいです。

【湯本市長に聞いてみたいこと】

②民生委員や児童委員の普段の仕事は何ですか。

市長の回答

民生委員を引き受けてくれる方がなかなか居らず、他の自治体でも課題となっています。3年くらい任期があるので、大変な仕事です。

民生委員はボランティアの方で、みんなからの困りごとや心配ごとを聞いて、助けてもらえる人や場所を紹介する「つなぎ役」です。子どもや子育ての困りごととも聞き、助けてもらえるところへつないでくれるので、児童委員としての役割も果たしています。

担当する地域のひとり暮らしの高齢者、障がいのある方、子育てが大変な方のお宅を訪ねて相談に乗ったり、学校への登校の見守りをしたり、運動会等の学校行事へ参加したりしています。

中野市には、障がいのある人や家族が、「こんなふうに生活したい。」「ひとりでいると何かあったら大変。」など、地域で安心して暮らしていけるように、いろいろな相談をするための窓口として、福祉課、中野市社会福祉協議会、それに7か所の障害者相談支援事業所があります。相談方法としては、「電話で相談する」、「窓口で相談する」、「おうちに来てもらい相談をする」などがあります。民生委員、児童委員へ話をしてもらうこともできます。

障がいのある人が相談できる場所がひとつでも多くなるよう、努力していきます。何か相談したいことがあれば、気軽に福祉課へ来てください。

【4班の提案】

児童の提案（4班）

【中野市にお願いしたいこと】

- ①観光ツアーやイベントを開催し、観光客や定住者を増やしてほしいです。
- ②小さいお店を守るために補助をしたり、新しいお店が増えるように誘致したりしてほしいです。

【湯本市長に聞いてみたいこと】

- ③今でも観光ツアーやイベントは充実していますが、今後たくさんの人に来てもらうために、どんなことをやろうと考えていますか。

市長の回答

お店を始めたいと思う人が空いている店舗にすぐ入れるよう、市では補助金を出しています。また、地域支え合い商品券を発行し、地域のお店に人が来てもらえるよう支援しています。ただ、須坂のイオンのように、人がたくさん来る施設が近くにできると、市でできる施策にも限りがあるので、方法を考えていかなければなりません

昨日は、宮島礼吏さんという中野市出身の漫画家さんを招き、漫画でまちづくりをテーマにソソラホールでイベントを開催しました。県内外から多くの方にお越しいただきました。宮島さんに描いてもらった4つのマンホールを見てまわったり、AR技術で漫画のキャラクターをスマホの画面に登場させたり、様々な企画を実施しました。

防災広場で、痛車のイベントもやりました。市の車や中野ハイヤーのラッピングカーのほかに、県内外から痛車を持つ人が集まりました。スポーツカーや、消防や自衛隊などの働く車もたくさん来ていました。参加者は約6,500人でした。

一本木公園で恒例のバラ祭りもありますが、来年はバラサミットを計画しています。

一昨日はウォーキングフェスも初めて行い、多くの人に来てもらいました。

ふるさと納税の返礼品でも、中野市の魅力をアピールしていきます。

交流人口を増やし、より多くの人に中野市に来てもらえるよう、引き続き取り組んでいきます。

【5班の提案】

児童の提案（5班）

【中野市にお願いしたいこと】

- ①ひとりひとりの子どもが丁寧に指導してもらえるよう、先生を増やしてほしいです。
- ②日本語を教えてくれる先生がほしいです。

【湯本市長に聞いてみたいこと】

- ③厳しい財政状況の中、給食費を無償にしてくれたのは、どのようなお考えからですか。

市長の回答

財政状況が厳しいのは、どこの自治体も同じです。給食費を無償化したのは、みなさんのような子どもたちが市にとって大切な宝だからです。

お年寄りが増え、子どもが減ってきている中、財政状況はどんどん厳しくなっています。地域を守るためには、未来の担い手であるみなさんがとても大切な存在です。そのため、「子どもどまんなか」を目指し、子育て世帯の負担を減らしたいと思いました。

また、食育という面でも給食は大切です。学校に来れば安心して給食を食べることができるという環境を維持します。

中野市は、比較的多めに先生を配置しています。ただ、予算にも限りがあります。本当は、子ども1人につき先生を1人つけるのが理想的なのかもしれませんが、税金でまかなっているのです、難しいところです。

【6班の提案】

児童の提案（6班）

【中野市にお願いしたいこと】

- ①公園の遊具を充実させてほしいです。
- ②歩道の整備やガードレールの設置をしてほしいです。
- ③子育て世帯に優しくできるよう、ポスターなどで呼びかけてほしいです。
- ④子連れでも行けるご飯屋さんをつかってほしいです。

【湯本市長に聞いてみたいこと】

- ⑤りんごっこやうさぎっこ、HUBLICなど、中野市には多くの子育て支援センターがありますが、子どもが減ってきている中、これらの施設は今後も増やしていくのでしょうか。

市長の回答

子育て支援センターは、減らした結果今の状況になっています。

HUBLICは、最初の年は約42,000人の方にご利用いただきました。昨年は約38,000人でした。利用者のうち、市外の方が6割、市内の方が4割です。とてもたくさんの方が来てくれています。施設を増やすのではなく、一つの施設の充実度をあげることも大切で、より多くの子育て世帯に来てもらえるよう生まれ変わっているところです。

子育て世帯に優しくできるような呼びかけをとのことですが、「赤ちゃんの駅」という、誰でも自由におむつ替えや授乳ができるスペースを市内に何か所かつくっており、市のホームページなどでお知らせしています。

また、「WEラブ赤ちゃんプロジェクト」という、電車やお店など人が多く集まる場所で泣き始めた赤ちゃんがいても「焦らなくても大丈夫だよ。泣いても気にしませんよ。」という優しい心を広げられるよう、ポスターやステッカーを公共施設などに貼ってお知らせしています。

遊具は今のところ増やす予定はありませんが、一本木公園や文化公園など、公園を魅力的にするための整備を考えています。遊具の安全基準は昔より厳しくなっており、お金もかかります。

歩道の整備方法として、一般的には、歩道と車道の上に15cm程度の高さの縁石を設置し、歩道と車道を分離させます。

ガードレールを設置する歩道整備はほとんど行っていませんが、近年では、ガードパイプを設置して歩道と車道の分離を図っている道路もあります。

子連れの入りやすいお店をとのことですが、市では、キッズスペースの設置など子連れのお客さんが利用しやすいように改修するお店に対して、補助金を出して支援しています。

【7班の提案】

児童の提案（7班）

①指定日ではない日にごみを出す人が居るので、収集所にカラスがたくさん来て困ります。ルールを守ってくれない人に教えてあげてほしいです。

【湯本市長に聞いてみたいこと】

②湯本市長は衛生面でどんな中野市にしたいと考えますか。

③東京の一部の区画では、各家庭のごみがパイプを通してクリーンセンターに送られると、修学旅行のときに知りました。中野市ではそういった取り組みは考えていないのでしょうか。

市長の回答

中野市では、廃棄物運搬用のパイプラインの整備は非常にお金がかかるため、現時点では考えていません。

カラスは利口なので、収集所のごみに網がかかっても、網を持ち上げてごみ袋を破ってしまいます。

それぞれの地区に対し、ごみの出す日はきちんと守るよう呼びかけたり、ごみに網をかけたなら周りに重りを置くようお願いしたりしています。もし、荒れてしまっている収集所など見かけましたら、市役所「22-2111」へ連絡してください。

中野市はご存知のとおり、自然に恵まれた美しいまちです。空気は澄んでおり、美しい田園風景も見られます。この素晴らしい場所を綺麗に保つため、もしごみが落ちているのをみかけたら、そのままにせず片付けたいと思います。